

# 白神通信

## 平成29年度の主な取組みについて



平成29年4月25日撮影  
藤里駒ヶ岳

白神山地の麓「藤里町」でも深緑を迎え、登山や行楽で賑う季節となりました。里山ではアカショウビンのキョロロロという心地よい鳴き声が響き渡り、山野草が次々と見頃を迎え、山に華やかに彩りを添えています。今年はシーズン初めから世界遺産地域に隣接する小岳へアクセスすることができ、既に登山された方も多いのではないのでしょうか。

そのような素晴らしい白神山地を後世に引き継いでいくため、当センターでは多くの関係者や関係機関との連携の下に今年度も生態系を保全する取組みを進めて参ります。

まず1つ目に、世界遺産地域における違法行為の防止と入山者マナーの向上促進するため、巡視員や地元自治体と連携して巡視活動や合同パトロールを実施します。また、巡視員会議を開催し、情報交換や意見交換を行います。

2つ目に、世界遺産地域への生息拡大が懸念されているニホンジカの状態を把握するため、遺産地域周辺に自動撮影カメラを26台設置し、関係機関と連携・協力し、定点調査を実施します。また、昨年度から実施している小型囲いわなでの試行的捕獲をICT(情報通信技術)を活用し実施します。

3つ目に、自然観察を通じて世界遺産の価値や魅力を普及啓発するため、一般の方を対象とした「白神森林講座」を実施します。また、地元教育機関や自治体からの要請による森林教室や自然観察会等を実施し、併せて国有林の取組みもPRして参ります。

これらの取組みは、ホームページや機関誌「白神通信」をとおして情報発信に取り組んで参りますのでご覧いただくと幸いです。

当センターの活動が、地域の方々に少しでもお役に立てるよう、職員一同力を合わせて取組んで参りますので、引続き皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

藤里森林生態系保全センター所長  
泉 光博

# 平成29年度 第1回巡視員会議を開催



## 白神山地世界遺産地域巡視員会議

白神山地世界遺産地域巡視員会議(秋田県側)が6月3日(土)八峰町ファガスで開催され、地域連絡会議の構成機関をはじめ巡視員、関係市町、県、環境省の担当者ら38名が出席しました。

はじめに地域連絡会議を代表し、東北森林管理局計画保全部長より「今年度は新たに秋田県側で3名の巡視員が加わり、今年度の巡視活動をよろしく願います。昨年度の巡視活動の結果は遺産地域内の違法伐採が8件、釣りやたき火等のマナー違反が12件確認され白神山地の自然保護を後世に残して行く為に今後とも定期的で地道な巡視活動が不可欠と認識していますので、今年度の巡視活動をよろしく願います。白神山地を巡る最近の情報として、ニホンジカ出現の情報が増えている。小型囲いワナを使った試行的な捕獲の取り組みを昨年の秋と今年の春先も実施しています。環境省で実施しているニホンジカのフンの識別調査のご協力や積極的な情報の提供やツキノワグマによる人身事故も発生していますので山を歩く際はツキノワグマに出会わない為の対策や滑落防止など安全の確保に十分注意しながら巡視活動を実施していただきたい」との挨拶がありました。

また、新たな3名の巡視員に委嘱状が授与されました。

今年度は(1)平成29年度の主な事業計画について、(2)巡視員活動について、(3)入山マナー向上の協力依頼等について、(4)合同パトロールの実施について、(5)ニホンジカ等の情報収集について、(6)その他の6議題について話し合いがありました。この中で自動撮影カメラと目撃情報の収集と合わせニホンジカの生息域を把握したいとして、巡視活動中のニホンジカのフンの採取の協力や、今年度の合同パトロールは、年2回入山者や観光客が多く見込まれる登山道を中心に実施する予定などの案が出されました。

## ニホンジカ対策、春期の小型囲いわなによる試行的捕獲を終了しました。

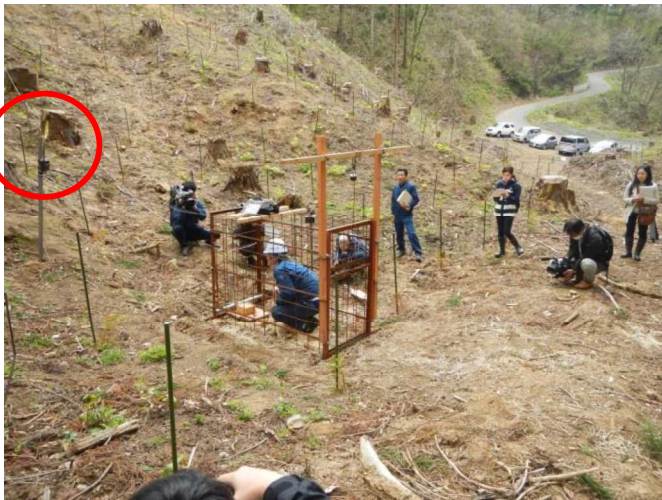
白神山地の周辺地域で目撃情報が相次いでいるニホンジカの対策として、平成28年度から引き続き小型囲いわなによる試行的捕獲事業を実施しました。

今回の小型囲いわなの設置で昨年と違う点はICT(情報通信技術)を新たに導入した点です。昨年度は動物がワイヤーに触れると扉が落ちる仕組みでしたが、設置期間中はニホンジカが捕獲されていないか、又は錯誤捕獲や誤作動で扉が落ちていないか等の確認のため、毎日見回りに行く必要がありました。今回導入したICTはアニマルセンサーと画像送信機能がついているカメラで、動物が小型囲いわなの中に入ると、わな上部に設置しているアニマルセンサーの温度センサーと、距離センサーで認識し、アニマルセンサーの磁石が外れて扉が落ちる仕組みです。扉が落ちるとわなの内部の撮影を行い、パソコンやスマートフォンに画像が送信されるので、毎日見回りに行く必要がなくなり労力の軽減が図られます。

また、小型囲いわなの設置場所については、昨年度は能代市ニツ井の天神貯木場跡地に設置しましたが、今年度は昨年度センサーカメラに4回ニホンジカが撮影された八峰町の小入川林道付近へ移動しました。

設置期間は4月25日～5月31日までで、期間中は小型囲いわなの周辺に設置している3台のセンサーカメラにサルやタヌキが撮影されましたが、わなに入ったり近づいたりするニホンジカは撮影されず、捕獲に至りませんでした。

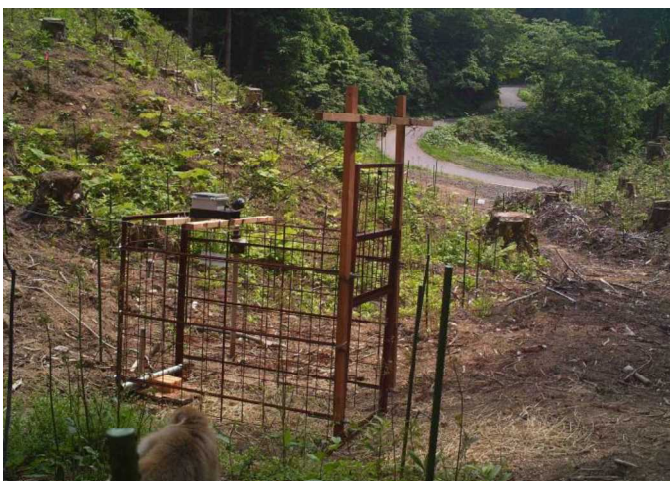
白神山地周辺地域では、ニホンジカの生息数はまだ少ないとみられ、捕獲や容易ではありませんが、今年度撮影されるセンサーカメラのデータも参考にしながら、エサが少なくなってくる秋にも小型囲いわなを設置する予定です。



作動状況確認



画像添付メールを飛ばすカメラ



H29年度小入川で撮影されたサル



H28年度小入川で撮影されたニホンジカ

## 森林教室

## ぶなの森探検

毎年恒例となっている藤里幼稚園ぶなの森探検を2日間にわたって学習しました。6月1日(木)、園児15名が白神山地世界遺産センターで事前学習をしました。ここでは、2日目に予定している岳岱自然観察教育林でのぶなの森探検でも見学する「400年ブナ」の等身大の写真が展示されていたり、また白神山地での自然観察ができるようになっています。センター職員は園児に、ブナの森や動物、昆虫等についてわかりやすく説明しました。その後、園児たちは興味のある展示やブース等を回り楽しく学習していました。園児から「楽しかった」の声がありました。

6月7日(水)、園児たちは元気に岳岱自然観察教育林内を探検しました。2班に分かれセンターの所長と職員が講師をしました。新緑のブナ林で「400年ブナ」を間近にして大きさに驚いたり、広葉樹と針葉樹の葉っぱの違いや1年目のブナの稚幼樹、そしてモリアオガエルの卵とサンショウウオの卵、エゾハルゼミなど実際に自然に触れ、世界遺産白神山地の探検ができました。園児たちは、最後に今日体験したことをお父さん、お母さんに教えたいと話していました。



ブナの葉っぱのお面だよ!



モリアオガエルの卵

### 転入出者の紹介



#### 生態系管理指導官 柳生瞬一

6月1日付けで下北森林管理署からこちらの方へお世話になることになりました柳生と申します。奉職して以来35年程になりますが秋田県内の勤務は初めての経験になります。当地は世界自然遺産白神山地の南側に位置し秋田県側の玄関口になっている自然豊かなところです。藤里駒ヶ岳や岳岱自然観察教育林など多くの方々が登山や森林浴等を楽しみに来訪し当センターにおいても、森林教室や自然観察会などの森林環境教育にも力を入れていると聞いています。こちらに赴任していきばくも経っておりませんが、職場の雰囲気も明るく活気のある環境だと感じております。体力的にも若い頃と比べ衰えています、職員の方々の足手まといとならないように業務にあたっていきたいと思いますのでよろしく願います。



#### 生態系管理指導官 諏訪忠一

藤里駒ヶ岳を眺めながら通勤すること約2年、国有林野事業最後のフィナーレを自然に恵まれた藤里町で終えることができました。昭和51年に旧青森営林局に採用され主に青森県を中心に管内17箇所で勤務、皆様からはその土地土地で暖かい御指導と格別の御厚情をいただき感謝しております。さて、私と白神山地との関わりは古く藤里・津軽白神両センター勤務が延べ6年で、新たな固有植物の分布域の発見や天然記念物のクマゲラの営巣調査にも携わりました。藤里センターにおいては、各種モニタリング調査、森林ふれあい推進事業としての白神森林講座、各年代を対象とした森林教室の開催、そして藤里町民祭にも参加しました。登山や沢登りで奥深く分け入った経験があり怖いこともありましたが、清楚な花々に疲れを忘れ、現在、地元三陸北部久慈支署で再任用され、白神山地との係りは少し薄れましたが、機会を見つけてはまた趣味として山行に出かける思いはあります。最後に大変お世話になりました。

### 編集後記

季節は早くも深緑の季節となりました。今年は例年より朝夕の寒暖差があり田苗代湿原のニッコウキスゲ等は長く楽しめそうです。ネマガリダケもいつもより季節がずれ楽しむことができました。それと今年は、クマの大好物であるネマガリダケなどのおいしいエサがあるここ藤里町でもツキノワグマの被害が発生しました。巡視活動をする私たちは、クマスプレーや爆竹、鈴など装備して、できればクマと出会わないように願っています。

(M. H)